



入野古墳に関する講座を30年振りに開催します

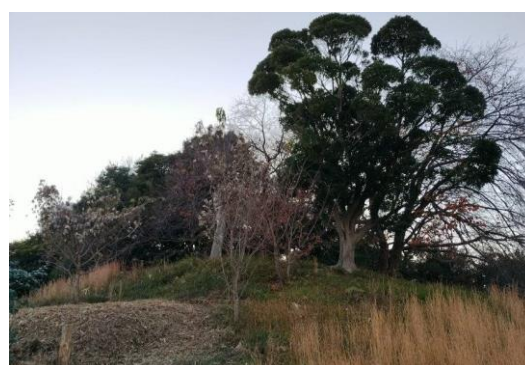
入野古墳（浜松市指定史跡）は、中央区入野町にある直径44mの円墳です。1993年度に市民の手による発掘調査が行われ、5世紀前半に築造されたことが判明しました。2023年度はこの調査から30年の節目にあたります。かつて市民の学習会が開催された入野協働センター（当時は入野公民館）を会場に、周辺地域の最新発掘踏査の成果を踏まえた講座と古墳と周囲の文化遺産をめぐる見学会を開催します。

講座「入野古墳を知る」

日 時 2月4日（日）10:00～12:00

講 師 鈴木 一有（西行政センター副参事）

場 所 入野協働センター ホール



入野古墳

見学会「入野古墳と周囲の遺産を識る」

日 時 2月18日（日）13:00～15:00

見学先 入野古墳（市指定史跡）、佐鳴湖（市指定名勝）
龍雲寺 木造阿弥陀如来坐像（市指定彫刻）ほか

案内人 鈴木 一有（同上）

集 合 龍雲寺駐車場

※申し込みは1月29日に締め切っています。参加者は45名の予定です。



佐鳴湖



龍雲寺



阿弥陀如来坐像



五輪塔

1993年に実施された市民の手による発掘調査と今回の講座について

浜松市博物館の事業として、市民主体の歴史学習会「入野古墳の学習会」が1992年に組織され、入野公民館（現入野協働センター）を会場にした講座や、関連地の現地見学などを通じて市民の手による測量調査が実施されました。1993年にはこの学習会が主体となり、市民の手による部分的な発掘調査が行われ、葺石を備えた直径44mの円墳（浜松市内で2番目の大きさ）であること、古墳の築造時期は5世紀前半頃であることが判明しています。

近年、浜松市内でも古墳時代の発掘調査成果が数多くあがっており、講座では、最新の情報をもとにして入野古墳の位置づけを明確にいたします。

